

D-4 『家庭』領域における内容の再構成への 提案（小学校家庭科）

東京都鷹番小 松田喜美子

1. 目的

現行の家庭科教育は家庭生活の技能性を強調するあまり家庭生活の本質的な機能が部分的になる現実の中で家庭科自体の本質的な意味と教育構造とのからみあいの中で他教科との比重において内容の再検討が必然的におきてきた。従って今日的視点から考えてみるとこの時代における『家庭生活』の機能に対する社会的要求および永遠に変わらない人間生活における本質性をどのような機構並びに内容によってその接点を発見し調和させ新たな創造性の母胎となる『家庭』の樹立を教科領域の中で樹立しなければならないと思う。

2. 方法

過日6月7日家庭科教育学会において発表した。

(イ)『家族関係における児童からみた父母の診断』を中心とした家族関係の特に親子関係における診断を国立教育研究所の指導を得てまとめてみた。(ロ)更に現行の指導内容の再検討として指導要領への批判 (ハ)前者と後者に

よる調整とその方法論（内容の再構成）

3. 成 果

現行の家庭科教育の大きな問題点として下記のことが考察される。一般的に作法主義的な現象的指導性が強い
ため構造的に欠き更に現実的な課題性に欠くことが教育
構造において底浅いものとして考えられる。更に今日の
物的環境の重視に対し調査の結果はむしろ心的要素の必
要性と重要性が確認したことは教育環境への手がかりと
なった。